

JCAABEまちづくりファシリテーター養成講座実施委員会
JCAABE Community Development Facilitator Training Committee

建築系まちづくりファシリテーター養成講座の開発と実践

Development and Practice of "Architectural Community Development Facilitator Training Course".

○社会的意義・目的と概要 「つなぐ」をテーマにした促進者の育成

現在、地域における問題・課題として「空き家・空き地」「防災」「地域活性化」「福祉の充実」「人口減少」「担い手不足」などが存在している。それらを総合的に解決、推進するためには、地域創生を含めたまちづくり活動が大切である。行政においては、空き家対策は緊急課題であり、地域住民と共に解決策を見出すことが求められている。これには建物だけではなく資金調達や運営、活性化といったエリアマネージメントを含めた総合的な知識が必要である。まちづくりには多様な立場の人が関わるため、その合意形成には専門的手法が必要となり、それを推進するためのファシリテーターが必要であるが、それを担う人材が不足しているのが現状である。本取り組みは、全国の専修学校・大学などの建築系コースにおいて建築をベースとしたまちづくりファシリテーター講座の開発と実践を行うことで住民・市民と協働できる人材育成を行うものである。この取り組みは、2019年度文部科学省の「専修学校による地域産業中核的人材育成事業」に日本建築まちづくり適正支援機構(JCAABE)が申請・受託してスタートした。幅広い分野から建築士、建築家、研究者、教育者等が集まり、事業実施委員会を設置し取り組んできた。2021年からは各地域に根差した高等教育機関と協働し教育活動を実施し広がりを見せている。



○事業の経過 調査—開発—実践—未来へ 段階を踏まえた人材育成

まちづくりファシリテーター養成講座事業実施委員会
2019.10-2021.03

実践2020- 麻生建築&デザイン専門学校、
新潟工科専門学校、日本工学院専門学校

実践_2022- 修成建設専門学校
・東海工業専門学校金山校

実践_2023- (教材使用含む)
・岡山理科大学専門学校・読売理工医療福祉専門学校
・立命館大学 ・名古屋女子大学

調査:2019.11-2020.02



2019

2020

2021

2022

2023

未来へ

教材の開発(シラバス、テキスト、動画教材、マニュアル、広報資料など)

教科書発刊(2021.09-)

スプリングセミナー 2023.03-

サマーセミナー 2023.08-

<p>■調査: 実務のまちづくり活動への接点調査 (地域の現場で実践)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. まちづくりファシリテーターの役割 2. まちづくりファシリテーターのスキル 3. まちづくりファシリテーターの育成 	<p>■調査: 教材の開発</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. シラバスの開発 5. テキストの開発 6. 動画教材の開発 7. マニュアルの開発 8. 広報資料の開発 	<p>■調査: 教材の開発</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 教材の開発 10. 教材の開発 11. 教材の開発 12. 教材の開発 13. 教材の開発 14. 教材の開発 15. 教材の開発 16. 教材の開発 17. 教材の開発 18. 教材の開発 19. 教材の開発 20. 教材の開発 21. 教材の開発 22. 教材の開発 23. 教材の開発 24. 教材の開発 25. 教材の開発 26. 教材の開発 27. 教材の開発 28. 教材の開発 29. 教材の開発 30. 教材の開発 31. 教材の開発 32. 教材の開発 33. 教材の開発 34. 教材の開発 35. 教材の開発 36. 教材の開発 37. 教材の開発 38. 教材の開発 39. 教材の開発 40. 教材の開発 41. 教材の開発 42. 教材の開発 43. 教材の開発 44. 教材の開発 45. 教材の開発 46. 教材の開発 47. 教材の開発 48. 教材の開発 49. 教材の開発 50. 教材の開発
--	---	---



○事業実施委員会

多様な実践者・研究者・教育者

※敬称略、委員長、副委員長以外50音順、所属は2020当時

- | | |
|---|--|
| <p>連 健夫 (日本建築まちづくり適正支援機構)</p> <p>松村哲志 (日本工学院専門学校)</p> <p>阿部俊彦 (立命館大学)</p> <p>市古太郎 (東京都立大学)</p> <p>今泉清太 (麻生塾麻生建築&デザイン専門学校)</p> <p>大倉 宏 (新潟まち遺産の会代表)</p> <p>大槻一敬 (大槻企画制作事務所)</p> <p>里中勝哉 (リパソニックホームズ株式会社)</p> <p>鈴木大介 (大東建設株式会社)</p> <p>高橋寿太郎 (創進系不動産)</p> <p>田中裕治 (株式会社リライト)</p> | <p>西川直子 (建築ジャーナル)</p> <p>仁多見透 (国際総合学園新潟工科専門学校)</p> <p>野澤 康 (工学院大学)</p> <p>茨田慎之 (株式会社アツカマタ)</p> <p>松本 昭 (デザインタック株式会社)</p> <p>向田俊之 (特定非営利法人モクテン企画)</p> <p>連 勇太郎 (連ヨウスケアトリエ)</p> <p>連 洋助 (連ヨウスケアトリエ)</p> <p>山田俊之 (日本工学院専門学校)</p> <p>渡邊研司 (東海大学)</p> <p>北村穂和 (株式会社プリマ)</p> |
|---|--|

○調査

事例調査、アンケート調査、ヒアリング調査(学校、企業、行政など)

※日本建築学会第20回建築教育シンポジウム建築教育研究論文報告集 参照

- 調査結果・考察・まとめ(抜粋)
- ・まちづくりファシリテーターは行政・企業ともに必要と回答
 - ・特に住民・市民と専門家をつなぐコミュニケーション力の育成が必要性
 - ・コミュニケーション力育成は協働する態度(Attitude)の育成が重要
 - ・この考え方は社会にとって重要であるが新しい考え方であり、それをわかりやすく説明するためのツール、広報などが必要
 - ・多様な課題解決に向けてまちづくりの専門家としての幅広い知識の習得必要
 - ・教育を実施に対する専門家不足の現状。
 - ・全国各地域で実施することへの工夫の必要性

○開発1 まちづくりファシリテーター人材育成のイメージ

①「人」と「人」をつなぐ目線をもった、②参加と協働の手法を実践できる、③まちづくりの専門家が必要。



開発・実践に向けたPOINT

- T** **Technic & Theory**
T字型人材像:協働を促進する人材像
- 幅広い知識と提案できる専門力
 - 提案できるコミュニケーション能力
 - 地域リーダーと繋がり要求に応える建築の専門性を持った人材へ
- A** **Attitude:素養(態度+知識スキル)の育成**
- 多様な人と話ができるコミュニケーション力を持った態度
 - 「時間・距離・人」に左右されない教育方法
- R** **Recognition:社会認知と考え方のイノベーション**
- 学生・社会への認知に向けて
 - キャリアストーリーの提示

特に「時間・距離・人」に左右されない学習方法の模索について意識し、オンライン・オンデマンドを用いたハイブリット型の授業運用や動画教材の開発を行った。

まちづくりファシリテーター養成講座→広く人材を育成する流れを作ることが目的

建築系まちづくりファシリテーター養成講座の開発と実践

Development and Practice of "Architectural Community Development Facilitator Training Course".

○開発から実践へ

シラバス全体構成 :幅広い分野構成

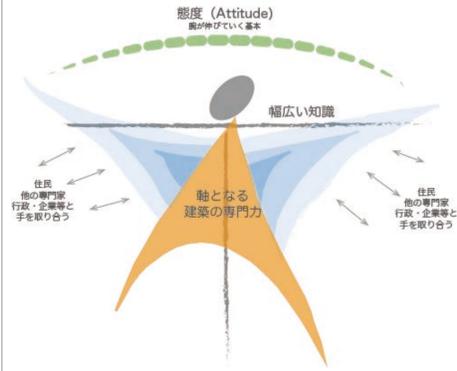
<p>■総合</p> <ol style="list-style-type: none"> まちづくりファシリテーターとは何か まちづくりフィールドワーク①※ まちづくりフィールドワーク②※ まちづくりフィールドワーク③※ 	<p>■B:都市計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 都市計画における住民参加とファシリテーターの役割 まちづくりファシリテーターのコミュニケーション力のコミュニケーション力 地域特性を活かす規制や法律 空き家空き地活用概論 事例見学※ 	<p>■D:不動産・経営・税金</p> <ol style="list-style-type: none"> 建築と不動産 演習※ 今後の不動産業、宅建士との役割 演習※
<p>■A:建築・デザイン</p> <ol style="list-style-type: none"> 建築設計における参加型のデザイン 参加型デザインによる実例見学 ※ リノベーションまちづくり概論 リノベーション技術・実習 ※ インスペクション・耐震化・不燃化概論 演習※ 	<p>■C:合意形成・ワークショップ</p> <ol style="list-style-type: none"> まちづくりの手法① まちづくりの手法② ワークショップ演習 (KJ法・3Dゾウ) ※ 	<p>■E:修復・防災・エネルギー</p> <ol style="list-style-type: none"> 事前復興まちづくり 事前復興まちづくり演習※ 建築・まちづくり事例講義 エネルギーとまちづくり エネルギーとまちづくりの実践※ 保存・修復とまちづくり 修復実例見学※

■総合 実際のまちづくり活動等への体験学習 (地域の実情で柔軟に設定) ※

カリキュラム・シラバス :経験学習サイクル

前期15コマ	後期15コマ
<p>1 総合</p> <p>2 B.都市計画</p> <p>3 実践</p> <p>4 WS</p> <p>5 C.合意形成ワークショップ</p> <p>6 実践</p> <p>7 WS</p> <p>8 B.都市計画</p> <p>9 E.修復・防災・エネルギー</p> <p>10 演習</p> <p>11 実践</p> <p>12 A.建築デザイン</p> <p>13 実践</p> <p>14 実践</p> <p>15 実践</p>	<p>16 総合</p> <p>17 E.修復・防災・エネルギー</p> <p>18 実践</p> <p>19 A.建築デザイン</p> <p>20 演習</p> <p>21 E.修復・防災・エネルギー</p> <p>22 実践</p> <p>23 B.都市計画</p> <p>24 演習</p> <p>25 実践</p> <p>26 B.都市計画</p> <p>27 実践</p> <p>28 総合</p> <p>29 実践</p> <p>30 実践</p>

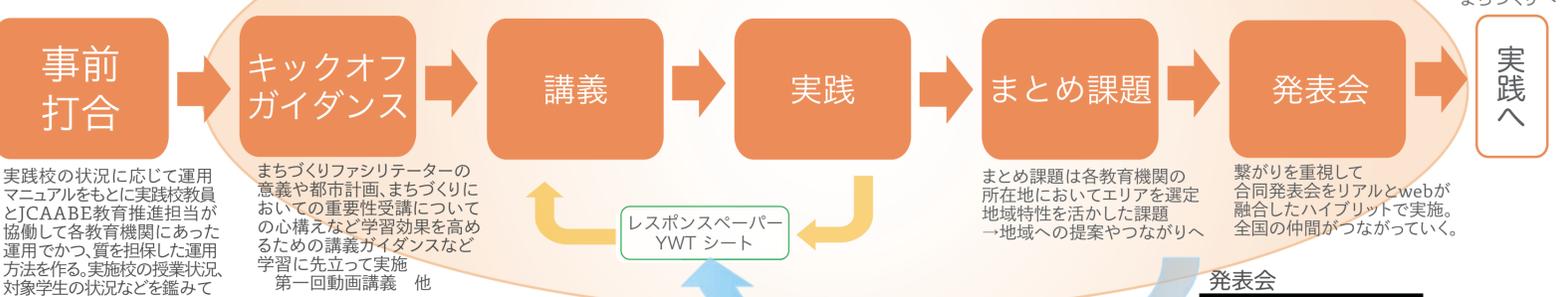
T字型人材育成:人材育成モデル



T型人材増:目的を持ったコミュニケーション力。
 ○幅広い知識と提案できる専門力。
 ○ビジネスから法律に至るまでの幅広い内容。
 ○提案できるコミュニケーション能力。
 ○更なる専門家に繋ぐ能力。
 ○先行して育ちつつある社会福祉分野地域リーダーと繋がり要求に応える建築の専門性を持った人材へ。

講座実践の基本的な流れ

講義の担当者:認定まちづくり適正建築士
 講義の担当者はJCAABEの認定まちづくり適正建築士が行うことが義務付けられており、講座の質を担保するための講義ガイダンスなど学習に先立って実施



講義(オンデマンド)

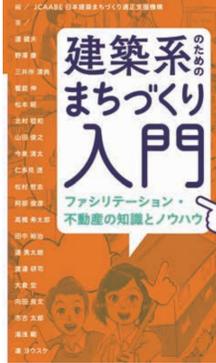


実践



テキスト

実践者・研究者・教育者による実践的なテキスト



建築系まちづくり入門 /学芸出版社

講義動画



スキマ時間視聴をする考えて分割して作成スマートフォンでも見える大きめのテロップ講義動画は基本教科書執筆者が担当

わかり易くする工夫



見学動画の工夫



実践課題

実務者・研究者が作成した実践的な課題



運用マニュアル

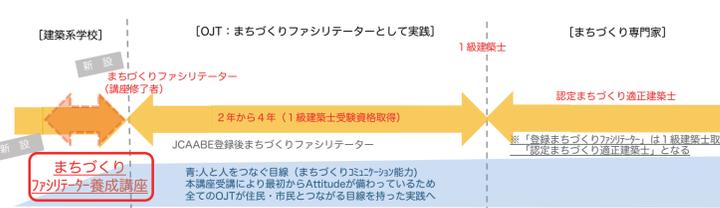


運用マニュアル

運用マニュアル掲載事項
 ・育成する人材像と教育目的、方向性のポイント
 ・シラバスと運用
 ・モデルカリキュラム
 ・web利用のポイント
 ・リアルとwebの融合に向けて
 ・web会議システムの利用について
 ・クラス管理ツールの利用法
 ・レスポンスペーパーとYWTシート
 ・講義(オンデマンド)・反転授業について
 ・実践について
 ・演習の課題例
 ・判定について

○未来へ

人材育成のキャリアストーリー



まちづくり人材育成のキャリアストーリーを作成し公開
 学び直しやキャリアアップなど、未来につながるキャリアストーリーを提示

受講生の広がり

4年間で講座に参加した
 学生383名 修了者289名
 専門学校 8校 + 2大学(教材使用)
 日本工学院専門学校・新島工科大学
 ・麻生建築&デザイン専門学校
 ・東海工業専門学校金山校・修成建設専門学校
 ・静岡産業技術専門学校
 ・岡山理科大学専門学校・読売理工福祉専門学校
 教材使用 立命館大学・名古屋女子大学
 令和3-4年
 文化庁文化遺産国際協力拠点交流事業
 カイロ旧市街保存まちづくり

社会人のキャリアアップ機会の提供



海外でのまちづくり人材育成へ



令和3-4年 文化庁文化遺産国際協力拠点交流事業
 カイロ旧市街保存まちづくり/住民参加のまちづくり
<https://jcaabe.org/page-2377/>